

幻魔特区スザク side :
H

鴨鶴嘴

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

トキモリの凶刃によって死に絶えた筈のヴィルゴ。そんな彼の“負の感情”を観測し、興味を持った高位生命体によって、新たに生まれ変わったヴィルゴのIFストーリー

目次

プロローグ 鈍色の衝動

—
1

プロローグ 鈍色の衝動

それは圧縮された時間の中で、呼び掛ける。

一人の人間だったモノは既に死に絶えた。が、別の器、融解したガーディアンコインの残滓の中で短縮された電気信号による複製。あるいは、今際に客観が生み出した別人格。それによる思考実験が行われていた。

ニクイ・・・ニクイ・・・グオオオ・・・オオ・・・

——何がそんなにも、憎いんだい？

ガーディアン共ガニクイツ!! ニンゲンヲ道具ミタイニ、人工生命ノ分際デツ、オレヲ見下シヤガツテ!!? ……コロスコロスコロスコロスコロスコロス!!

——どうどう、そう一人でエキサイトされたら、折角の対話が続かない。少し感情を抑制してあげようか。

コロシテ……オレガ……オマエハダレダ?

——落ち着いたかい。でも、質問をするのはこちらだ。さて、君は『道具みたいに』扱われて怒っているようだけれど、それを初めから承知していたんじゃないのかい? 自分
は捨て駒に過ぎないモルモットだと知った上で、ガーディアンの力を求め、力を制御出

来ずに破滅した。気づいてないフリは無駄だ。君はどこまでも人間で、可能性を自分を削ることではしか見出だせなかった。いやはや、涙を誘うほど不憫だね。

コロシテヤル：：ナンダ。殺意ガ、続カナイ。コレガ感情ノ抑制力。ソノ傲慢サ、ユルサナイ。

——クククツ、君って本当にユニークだよ。好きだ、恋してると言ってもいい。やはり、進化の因子は、我々が捨てた感情の中にある」という私の仮説は正しかった。

シネ。

——いいとも。私のリソースを君にあげよう。

ナニヲ言ツテイル？

——さようなら、だよ。君は私の海から情報生まれ変わる。私の子供として、新たなステージに昇華するんだよ。ヴィルゴ・ニード、愛しい私の子。君が次に産声をあげる時、私に名前をつけさせて欲しい。

ナンダコレ、ハ……熱ツイ！クソ、存在ガ、崩レテイクツ!?オレニナニヲシタカ答エ
ロツ!!

——『アレン・アルター』だ。リソースを使える今のうちに、書き込んでおこう。……
今はおやすみ。



『ハローキワム。通信は良好ですか』

「……ああ、よく聞こえてるよアサギ。あのウシユガ博士が調整してくれたしな、流石だよ」

『ですね——目的地の座標に変更はありません。新たに補給地点等の情報をマップに加えておきましたので、後で確認してください』

「了解」

『では、通信を切ります。次の通信は14:00に。私もカメラから其方の様子を見ていきますが、何か問題が発生した際にも通信を繋いでください。では——』

「心得た。じゃあまたな——さて、行くかクロ」

「アンツ！」

ウシユガ博士の改良型フォナーでマップを歩きながら確認していると、いつの間にか森は林に変わっていた。よく観察すれば、草の踏み跡が、疎らだか確かにある。

「高濃度のソムニウム反応、だったか……胸騒ぎがするな」